

令和5年度第2回島田市地域ケア会議 会議録

開催日時：令和6年3月8日（金）午後7時から午後8時30分まで

開催場所：島田市役所 3階 大会議室

出席者 【委員】

静岡福祉大学	山城 厚生（会長）
島田市医師会	片岡 英樹（副会長）
通所介護事業所	鈴木 義裕
訪問介護事業所	小杉 揚子
ケアマネットしまだ	伊藤 由美
島田歯科医師会	川端 泰三
島田薬剤師会	徳本 英史
島田市社会福祉協議会	大石 江利子
島田市民生委員・児童委員協議会	鈴木 幸治
長寿介護課	中山 和彦
島田市自治会連合会	望月 義弘

【専門委員】

地区社会福祉協議会	小林 強
地域ふれあい事業連絡協議会	永田 伸子

【事務局】

包括ケア推進課課長	大久保 勉
〃 課長補佐	大庭 渡
〃 係長	川本 実子
〃 係長	米澤 美晴
長寿介護課 係長	杉本 健二
包括ケア推進課主査	杉野 みゆき
〃 保健師	鈴木 大地
〃 相談員（島田市医師会）	紅林 みな子

【その他】

高齢者あんしんセンター第一	村松 剛
高齢者あんしんセンター第二	大石 鑑子
高齢者あんしんセンター六合	勝又 諒也
高齢者あんしんセンター初倉	遠藤 久哉
高齢者あんしんセンター金谷	杉山 葉子
高齢者あんしんセンター川根	奥川 泰史

1 開会

本会議について原則として公開とし、会議録についても公表することとなる旨を説明

2 会長挨拶

医療、介護、福祉、教育、すべてのベースは個人、1人の方に私たちがどう対応するか、どう支援をするかということですが、1人1人ではなく、各ブロック、身近なところのエリアで支援をしていくことも重要、ミクロからメゾと言っていいのかもしれませんが。そして、この島田市内全体、もう少し大きく志太榛原圏域、静岡県、また、国など、マクロな視点でケアをしていかなければならない。今日はまさしく島田市の地域を、マクロの視点の中でケアを考えていく会議と思っております。

何分不慣れですが進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
島田のこのケア活動が、より進展していくといいと思います。

挨拶は以上です。議事に入ります。

3 報告事項

(1) 島田市の介護保険事業 2023 モニタリング

要支援・要介護認定の状況、介護サービスの利用状況について

(2) 島田市の介護保険事業

地域包括ケア「見える化」システムを活用した地域分析

(※資料により事務局(長寿介護課)説明)

会 長 介護保険事業モニタリングと見える化システムについて説明いただきましたが、これについての質問、確認等がありましたらお願いします。

特にないようでしたら、次に進み、後ほど一括でご意見等伺います。

(3) 総合事業の現状

① しまトレ推進事業

② パワーリハビリ教室事業

③ Eスポーツ教室事業

④ 通所型短期集中予防サービス事業

⑤ 認知症高齢者等見守り事業

⑥ 介護予防ケアマネジメント促進事業

⑦ 地域ケア会議推進事業(自立支援型地域ケア会議)

⑧ 生活支援体制整備事業(外出支援)

(4) その他の事業について

実施状況評価シート

(※資料により事務局(包括ケア推進課)説明)

会 長 総合事業はかなり幅があります。そして資料12の説明をいただきました。引き続き片岡先生から在宅医療介護連携部会の報告をしていただき、それから皆さんの意見を伺いたいと思います。

(5) 島田市地域ケア会議「在宅医療介護連携部会」について

(※資料により片岡先生(在宅医療介護連携部会長)説明)

会 長 片岡先生より在宅医療介護連携部会の状況報告をいただきました。リビングウイ
ル島田版の活用がなされていなかったという報告も含めていただいたところです。

それでは、全般的にご質問、ご意見、ご感想等、また、委員としての2年間の状況
や感想を含めても構いません。いかがでしょうか。

委 員 今回、しまつなレター3月号にも掲載させていただいている中河地区生活支援を
つなぐ会に参加させていただいています。生きがいデイサービスの皆さんが集まる
ところのスタッフの高齢化が現状の課題としてあり、集まっていること自体も若い
人は知らない人がいる。私たちができることは、その若い人たちに、こういう事業を
しているということを知っていただき、後継者をつなげていくということが大事
なことと思い、参加させていただいた。みんなに知っていただきたいという思いもあ
って参加させていただいている。また、レターなどで若い人たちにも事業のことを知
っていただくことがあればいいと思っています。

会 長 いろいろなところが高齢化となっています。スタッフとしても利用者としても参
加すればいいですね。

委 員 ヘルパーの数も看護師さんの数も少ないと聞いていますが、ヘルパー自身も高齢
化になってきて、若い人のなり手が無いというのを感じています。このような、包括
でやっているいろいろな事業に、もっと参加したらいいと思っています。これからも
包括からのイベントがあるときには参加したいと思いました。

会 長 事業所と包括との連携。介護支援者の不足はどこにいてもある。同じように話題
になっている。大学の方もなかなか厳しいというところです。

委 員 内容的に違うことになってしまいますが、最近、災害が多く、実際に起こった時に、
どのように支援していけるかというところがいろいろな研修で問題になっています。
市として、いろいろな団体がありますが、どのようにつなげていくか、いざ災害が起
こってからでは遅いため、事前に考えていかなければいけない。1月1日の災害を見
て早急にやっけていかないといけないと考えています。

会 長 1月1日の災害では、高齢の方々も、そのご家族の方々も、障害の方々も、皆さん、
遠い話ではなく、身近に感じてきたのかもしれない。不安はあると思います。どこ
へ、どこがとわかっている状況になっていかないといけないと思いました。

委 員 災害があるごとに口腔ケアということが一般的に話題となり、ありがたいこと
ですが、能登の方でも歯科医師会から5チームか6チーム行き、現在も続いているよ
うです。場所によって支援が違い難しいことを聞いています。

一般的な訪問歯科診療を20年以上前から続けていますが、認知度が低い。年間100
例以上は行っています。高齢者保健福祉計画の事業が30以上あると伺いましたが、こ
んなにたくさんあると驚きました。この人にあった事業計画を見つけるのは非常に
大切だが、どのようにやっているのか。対象者を選んでどのように進めていくか教え
てほしい。

事務局 簡易的なチェックリストをして対象者を検出するやり方がありますが、通いの場
等に包括支援センターの職員が出向き、以前より状態が落ちているのではないかと等
気を付けてもらっています。自宅へ訪問するなど、状態をキャッチする動きをしてく
れています。

加えて、地域の通いの場には、包括ケア推進課で任用している看護師を随時派遣、
巡回していて、その中で相談を受けたり状況を把握したりしています。

会 長 歯科の立場からするとまだまだ訪問歯科診療の認知度が低いということです。高

齢者にしても災害時にしても、とにかく食べなくてはならないため、そういう点からすると歯科についてももっともっと多くの方に理解いただけるといいと思います。

委員 薬剤師も訪問サービスを行っていますが、認知度が低く、利用者が多くない状況です。その中でも、患者さんの中に、お母さんが認知症で、お薬が家にたくさんたまっているにもかかわらず、誰も薬の面倒を見てあげない、放置されているというご相談がありました。介護認定を受けている方で、訪問サービスで薬が正しく飲めていない方を見つけた場合、薬剤師が介入することで、薬カレンダーにセットするとか、服薬支援ロボットで、（まだ持っていませんが、場合によっては購入を検討しようと思っ

会長 先ほどの歯科訪問の問題、薬剤師の訪問サービスについて、市民の皆様にはわかりづらい、私自身も薬剤師さんをお願いするときに、どこにどうやってお願いするかわからない。薬局の薬剤師さんのところへ行けばよろしいですか。

委員 パターンとして、ケアマネさんや訪問看護師さんに入っていただきたいという声をいただいたり、先生からこの方は薬を正しく飲めていない可能性があるため、家に行って調べてきてほしいと言われていたり、あとは、私たちの方で実際薬を正しく飲めていない可能性があるため、やらせていただけないかとお話させていただくことがあります。費用がかかるところで、敬遠されることが問題と思っています。

会長 ケアマネさんと利用者さん、ケアマネさんと御家族がいかに繋がりながら情報共有するということですね。

委員 市から委託を受けている生活支援コーディネーターという事業で、各地区を回らせていただいておりますが、その中で気になった点について質問させていただきます。資料4のしまトレの推進事業ですが、平成28年度から始まったしまトレで、5年、6年経ってくる中で、地域活動の場所を訪問すると、しまトレに参加していた人が来れなくなってしまうとか、ハードルが高くて参加できない人がいるという声をよく聞くようになっていきます。そういう方々、そういう団体に対しての支援をどのように考えているのか。伺いたい。

また、計測のところは皆さん楽しみにしていて、市から保健師さんが来てくれるからいろんなことが聞けて嬉しいという声がありますが、資料を見る限りしまトレナーの養成講座を終えた方が体組成計や握力計の貸し出しを市から借りて実施されるという記載と、口頭での説明と違いがあったためその点についても伺いたい。

公認しまトレの数が増えている中で、川根地区が今年度かなり増えていると聞いていますが、どのような工夫や努力をされたのか教えていただければと思います。

資料8の見守り事業の中で、利用されたケース、登録をされていて活用されたケースがあれば教えていただきたい。よろしく申し上げます。

事務局 しまトレについて、参加者が高齢になり継続が難しくなっていることを課題に上げさせていただきました。今、働き方が変化し、70歳近くまで働き、若い方たちが地域の通いの場に参加していただくことが難しくなっています。その中でも、きっかけ講座やしまトレナー養成講座は、自身の健康づくりを視点にしまトレの要素を取り入れながら興味をもっていただき、地域の通いの場に参加していただけるような取り組みを行っているところです。しまトレナー養成講座で体力測定という人材については、体組成計が包括ケア推進課に1つしかないことや、2回の講座ですぐに地域の担い手として活躍できるかという点、なかなか難しく、そこも課題と思っています。少しでもやる気のある参加者については、今後も声掛けし、担い手の育成に取り組んでいきたいと思っています。

包 括 川根地区は高齢化率50%に達しました。小学校低学年で言うと同級生11人しかいない。高齢者で言うと80歳が11人くらいで同じ、75歳くらいが一番多く120人くらいで10倍、そのような実感が地域的に感じられるようになっていきます。75歳～80歳くらいの方が衰えている場合ではないというのがわかると同時に、自分に対して物忘れが出てきたのか、体が少し弱くなってきたのか、自分にとってどうなのか、見つめ直すことが多くなりました。その予防として「しまトレ」という週1回の運動を続けていくことが、認知症や身体機能の低下に対してどういう効果があるか、理解をしてもらうことを行っていったことが1つ。

もう一つ大きな理由は、地域の開業医の先生が、初期の認知症、フレイルの可能性がある方に対して、とにかく、あなたはどこかの運動教室に行きなさいという指導をしてくれるようになりました。その先生が、自分のクリニックで、診療後、時間を使ってクリニックの待合室をしまトレの会場にして、自分のところでも、健康体操の教室（しまトレ）、を行ってくれたということで、先生が言った上に、自分でやるなら間違いないという考えが広まったことが大きかったと思います。川根の方は、遠くには通えないため、自分たちの近くに作りたいという声がたくさん上がったということです。

事務局 もう一つ事前登録事業で登録されていた方の事例で、警察と高齢者あんしんセンターと包括ケア推進課が情報共有することを利用者さんに了承いただいて情報共有していますが、警察の保護した方が登録者だったということで、家に行っても耳の聞こえない家族がいるが、どうしても中に入れたい方が、登録票の中にケアマネの名前があって、ケアマネさんに相談して、一緒に訪問していただき、家族に引き渡すことができたということがありました。

施設から脱走してしまった方も、登録していたため、速やかに家族へつながったと記憶しています。

会 長 しまトレによって健康につながっているところがあります。川根の話を知り、クリニックのドクターからの推奨が効果的だと思いました。

委 員 どんな方でも元気で健康に過ごしたい。介護事業のお世話にならないように元気で過ごしたいというのが皆さんの意見です。包括で介護予防の事業をいろいろやっていますので、そのようなことに頑張っていきたいと思っています。実際、私も今年パワーリハビリのシニアトレーナーの資格を取りましたし、eスポーツも指導員養成講座を受講させていただきました。パワーリハビリについては、現在、サポーターをやっていますが、やりたい方がたくさんいて、定期的にやりたいですが、希望者が多くてできない方が多くいるため、できるだけやりたいと思っています。

また、初倉地区にもできたらお願いしたいと思っています。

委 員 六合地区の道悦島応援隊のコーディネーターをしています。外出支援については、2021年から、生活支援については2017年から、活動を開始してから8年目になります。道悦島地区は六合駅を背にしているため、便利なように見えますが、お年寄りに対しては決して楽なところではありません。歩いて行けるスーパーもありません。開業医も歩いて行けるところが少なくなっています。外出支援も依頼が多く、今年度については、月平均17件くらいです。応援隊は設立から8年目に入ります。今、一番懸念していることは担い手不足です。社協はじめ、包括ケア推進課、高齢者あんしんセンターのご指導をいただきながら、何とか担い手を要請したいと思っています。外出支援も長年やっていますので、本人が入院したこともあり、現在、私を含め4名しかいません。サポーターがいません。これも急務ですが、昨年9月に地域の全世帯に担い手募集のアンケートを取りましたが、反応は皆無です。これにへこたれず、今年度は1人でも多くのサポーターをと、取り組んでいます。

会 長 担い手不足、スタッフ不足、どうかしないといけない。この場だけでなく、もうひと世代若いところで、しまトレもそうですが、まだ若い方が集まるところにターゲットを、というようなことも大事なのかと思いました。しいては、小中学校まで下げていく位のことを考えていくのがいいのかと思ったところです。

委 員 月に何度か集まりがありますが、皆さん元気です。責任をもって何かをやるということは生活する中で重要なことと思います。私は六合地区で、市内で唯一人口が増加しているところと聞いていますが、毎年、市から来る敬老会のお祝いの名簿を見ていくと、毎年10人～20人と、高齢者が増えていますが、その割にしまトレなどの参加が少ないということがあります。先ほど話がありました7割くらいが女性で、男性の方の参加が少ないとありましたが、男性の地域での仕事があるかと考えたときに、地域の見守り隊、防犯パトロール隊というのがありますが、半強制的に入会していただき、一緒に活動することをやっています。一時期50名ほどいたメンバーが、今は30名弱と減ってしまっています。参加しやすい環境をつくる、もっとアピールしていくことが大切と思っています。

委 員 議題の1にありました介護保険の状況の説明と被りますが、説明者が言いたかったことは、島田市で介護認定率が全国平均、県平均に比べて非常に低いということです。先ほどの話にもありましたが、健康で元気な方が地域で活躍していることが、認定率にも表れていると思います。介護保険を運営する立場として、介護給付費の話がありましたが、利用者の方は1割から3割で負担していただきますが、私たちはその7割から9割の分を払っているわけですが、1年間で80億円くらいを扱っています。これが、高いか安いか。保険料を皆様から集めていますが、それも非常に安いということを説明しました。使っていただく分は使っていただきたいと思いますが、皆さんの介護予防の取り組みが給付費の抑制に繋がったり、認定率の低さに現れたり、そうしたことがお金の面でも伝わってきますので、改めて皆さんの介護予防の取り組みが島田市の介護保険事業に非常に重要ということを理解した次第です。

委 員 川根地区は高齢化率が50%で、聞いたときはびっくりしましたが、若い人がいないということ、これから高齢化に向かっていくということで、心配をしています。我々としては、一人暮らしや高齢者二人暮らしのお宅へは必ず行って、安否確認ではないですが、いろいろなお話をしながら、「調子はどうですか」など毎月行って、活動しています。高齢者の女性は行動的でいろいろなところへ行き、しまトレをやったりしますが、男性は腰が重く、家から出ないという人が結構います。民生委員も、包括さんや社協さんにお世話になりながら、いろいろな情報を聞いて、こういうのがあるから行ってみて、という話はしますが、足が向かないというのが現状です。

また、私たちが訪問しても、いないお宅があり、郵便受けに新聞がたまっていることがあります。最終的には入院をしていたなどと後から聞いたりしますが、こちらは心配になります。以前、社協のケアマネさんと話をすることがありましたが、細かい情報はいりませんが、今は少し入院しているという情報は民生委員にも入れていただくと嬉しいです。民生委員とケアマネさんとのつながりがないため、できればつながりを作っていただき、お互いに情報を共有できればいいと思っています。

会 長 いろいろな制度やサービスが整っていると言っているかわかりませんが、かなりあることは確かです。それがあまり知られていない、あるけれどどうしたらいいかわかりづらい。このため、実際につながっていくこと。ただ、線を引いただけではつながってなく、実際に、具体的に声を掛けたり、具体的に顔を合わせたりしないとつながりにならない。その点では、川根地区はそのようなことが残っているというか豊かというか、お話を伺い感じたところです。

他にこれだけは言っておきたい、確認しておきたいことがありましたらお願いします。高齢者あんしんセンターの方、何かありましたらお願いします。(特になし)

会長 人間誰もが健康願望があることは確かだろうと思います。願望はあるけれど具体的にどうしたらいいかというところはなかなかというところで、また、願望はあるけれどまだまだ私はそこまでしなくてもという、わかってはいるけれど、自分の手に取ってとか、今、それを、というところまではいかない。しかし、石川県の例にしても何のことにしても、いつ何が起こるかわからない。そのようなことから早めからの学習、早めからの教育、これが大事なことだろうと思っています。先ほどのしまトレのことでも、私は若い人へも浸透させていく、高等学校、中学校くらいまで押し込んでいく。何か頭の中にと言いますか、体で覚えたものがどこかで活用できる、それが担い手の方にもつながっていく。しまトレやサロンでいつも担い手不足が話題になりますが、思い切って若い人たちに期待することもいかがかと。これが島田版になればなおいいと思ったところです。

皆さん、まだまだいろいろあるかと思いますが、これで全体の協議を終わりたいと思います。ありがとうございました。

事務局 本日は皆さま熱心なご協議をいただきまして誠にありがとうございました。

また、冒頭お伝えさせていただきましたが、任期2年間ということで、この2年間の活動、大変ありがとうございました。

本日皆様方からいただきました、介護人材不足や担い手の養成、そちらについては、早い段階からの教育が良いのではないかというお話、私どもが行っている介護予防事業の一層の実施と周知や普及啓発も重要だというお話、災害時の対応等、いろいろなお話が出ました。本日いただきましたご意見を整理いたしまして、来期の取り組みにつなげていきたいと考えております。

以上を持ちまして、令和5年度第2回地域ケア会議を終了いたします。